

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社 プログレス		
事業所名	地域密着型複合介護施設 あい楠見 【ユニット名:グループホーム こもれび】		
所在地	和歌山県和歌山市楠見中197-2		
自己評価作成日	平成26年2月4日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=3090100078-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは平成25年4月に2ユニット目開設となり、新ユニットに”ひまわり”、既存ユニットにも”こもれび”と、入居者の皆様やスタッフと相談し各ユニットに名称を付けました。日々入居者の方に早く馴染んで頂ける様コミュニケーションを図り、一人一人のニーズに応えられるように努力し、サービスの向上に努めています。地域には病院・学校・スーパーがあり、とても住みやすい環境にあります。地域の催しに参加したり、夏祭りには地域の方に来て頂いたりと少しずつ交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの2つのユニット名「こもれび」と「ひまわり」は入居者により命名されている。「こもれび」では「地域と共に私らしい生活」「ひまわり」では、「楽しく毎日を笑顔で過ごす」をそれぞれの理念とし、職員は自分達が入居したいと思える事業所になるように日々努力している。病院やかかりつけ医との連携が取れていて往診も受けることができる。通院受診時には、医師に日々の様子や健康状態を書いた手紙を渡し、返事をもらうようにしている等、健康に気を配り、毎日を安心して笑顔で生活できるように配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を貼り出し、職員が理念を共有できるように努めている。	それぞれのユニットで理念をつくり、入居者一人ひとりの個性を大切に、その人らしい生活の実現に向けて理念を共有し、日々研鑽している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の行事や溝掃除、地域の防災訓練に参加している。	職員の働きかけで、地域の文化の祭りには、招待状が届くようになった。また事業所の夏祭りには、地域の人の参加が得られている。自治会に入り、溝掃除や地域の防災訓練にも職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所のスーパーへの買い物同行や、地域の行事に参加する事で認知症の人の理解や、ご協力をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、活動内容などの報告を行い、ご家族様や民生委員より意見をいただいている。	民生委員や地域包括支援センターの職員、家族が参加し、入居者の日々の様子や終末期のケア等話し合っている。病院の会議室で開催されている為入居者は参加していない。	入居者がホームの主役であることを踏まえ、何らかの形で参加できるか、参加者が入居者と触れ合う機会を提供できることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居者待ち状況の報告や入居者の方の希望やニーズに新たな課題が発生した時には市町村担当に相談しサービスの検討をしている。	入居待ちの状況の報告や入居者が抱える課題等は、市町村担当者や包括支援センターに相談し、協力体制を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を配置し、定期的に委員会を開催、拘束の有無などの確認や、全体会議での発表を行い、拘束の防止に努めている。	身体拘束委員を配置し、毎月の委員会の際に研修も行われ、スタッフ会議で内容を周知している。家族の理解が得られるよう説明し、ベッドの4本柵を外せた実績もある。言葉による拘束についても学習会で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての外部研修へ参加。施設内研修でも虐待防止についての研修会を行い、虐待防止に努めている。		

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会について、常に告知しており、また参加してもらっている。研修参加者より、施設内研修の機会に発表を行って知識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族様が不安や疑問点がない様に時間をかけ、十分な説明を行い、ご理解頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様に近況の報告を行っている。カンファレンスで話し合った内容を部署会議で発表、話し合いを行っている。	運営に反映できるよう、家族の来訪時には話をよく聞くようにしている。毎年アンケート調査を行うが返事があまり返ってこない。家族会は設置されていない。	アンケート内容を答えやすく工夫したり、家族間で意見交換をする機会を設ける等の取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で、職員からの意見も聞いている。部署会議でも管理者が参加し、より密な話し合いが行えている。又、そこでの意見をリーダー会議や責任者会議で反映させている。	月1回スタッフ会議の後にグループ会議を行っていて、職員が意見を出しやすいように配慮されている。職員と管理者のコミュニケーションが良く取れていて、運営に反映できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働く上でやりがいや向上心を持てる様、個々の努力を評価し、反映させている。スタッフの思いを尊重し、働きやすい環境作りができる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トランスファーやケアの方法など、不明な事を聞きやすい環境作りを心掛けている。月1回、違うテーマで施設内研修を行っており、知識の向上に努めている。外部研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会、見学会等で交流を図り、情報交換し、サービスの質の向上に努めている。		

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様とカンファレンスを行い、内容をスタッフへ伝達を行っている。少しずつ信頼関係が築けるよう、会話や表情などからもご本人様の要望を汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスにて、ご本人様、ご家族様のサービスに対する要望や不安について、話し合いを行っている。又、今までの生活歴を大切に信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談時にどんな支援が必要かを考え、その人に合ったサービスも含め選べるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と一緒に家事を行い、役割を持って過ごしてもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に報告はさせて頂いており、ご家族様とも一緒に支援方法を考えたり、相談や支援に際しての協力もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様はもちろん、知人や友人の面会もある。	友人・知人の訪問は少ないが、友人に電話をかけられるよう支援している。グループホームの中での馴染みの関係づくりにも取り組んでいる。以前一緒にデイサービスを利用していた仲間の訪問も受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者様同士が円滑なコミュニケーションが図れるよう努めている。又、入居者同士の関わりの中での支え合いを見出せている。		

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様に対しても他のサービスを紹介し、支援していくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが会話などコミュニケーションから得た情報を部署会議などで話し合う事で情報を共有し、ご本人様の意向の把握に努めている。	職員が入居者とのコミュニケーションから得た情報をスタッフ会議やスタッフノートを活用し共有している。また一人ひとりの入居者に対して理念が実践できているか確認しながら日々の業務を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からも教えて頂き、出来る限り馴染みの生活を継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	伝達や記録に残し、他の職員との情報の共有に努めている。部署会議での話し合いも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにはご家族様も出席して頂いており、担当職員と計画作成職員が意見やアイデアを出し合い、その話し合いを元に介護計画を作成している。	個々の入居者の担当を決めている。カンファレンスでは、担当職員、本人、家族、関係者の意見を聞き、それをもとに介護計画を作成している。家族が参加できない時は、電話で意見を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子は個別に記録に残している。スタッフが疑問に思った事や改善した方が良い事などは閲覧ノートに記入、伝達を行い、支援内容の統一を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所内に他のサービス併設しており、その時のニーズに合ったサービスが提供できる様にしている。		

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽や体操のボランティアの方に来て頂き、より活動的で変化のある生活を送れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される入居者様には往診を利用して頂いたり、かかりつけ医へ近況を書面で報告することで適切な医療を受けられるよう支援している。	外来受診は家族が付き添うが、緊急時には職員で対応する。受診の際には、入居者の日々の状況を記した事業所からの手紙を、医師に渡し返事をもらうようにしている。通院受診できない人は往診を受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や気づきを看護師に報告し、支援方法の相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこれまでの様子等入院に至るまでの経緯の情報を伝えている。退院時には注意すべき点等事前に確認したり相談したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期となった場合には、家族様と話し合いを行い、意向に添えられるよう努めている。	事業所は看取り介護を行う方針で、契約時に看取りや延命処置について家族に説明している。状況に合わせて会議を持ち、家族や職員が話し合ってターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、定期的に勉強会を開催している。マニュアルを作成し、すべての職員が急変時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、マニュアルに基づいた自主訓練を行い、防火設備についても説明を行っている。消防署立ち合いの防火訓練も行った。地域の防災訓練にも参加させて頂いている。	年2回、火災訓練を行っている。1回は入居者と共に行い、1回は職員のみで実施しているが津波の訓練は行っていない。	紀の川が近くにあるので、津波による川の氾濫も想定される。今後、地震、津波時の避難方法、避難経路を想定した訓練も期待したい。

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し、尊敬の気持ちをもって接するよう心掛けている。研修会の機会でもテーマとして取り上げている。	年1回研修会を行っている。気づいたことはスタッフ会議で報告している。日々の業務の中で気になる場面があれば、管理者はその都度スタッフを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物など選んで頂いたり、自己決定できる場面を多く作れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位の生活スタイルを尊重している。昔からの趣味や日中の過ごし方などを把握し、ホームでの生活に活かせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方と一緒に服を選んだり、ご自身で身だしなみを整えて頂けるよう働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの状態に合った食事形態を考え、安全に楽しく食事が摂れるように働きかけている。味噌汁作りや、後片付けも入居者の方と一緒にやっている。	食事は同法人の老健施設から届けられる。職員は夕食時のみ一緒に食事をしている。誕生会や節分等の行事には、事業所内で調理をし一緒に食事を楽しんでいる。おやつは毎日手作りで入居者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を記録し、摂取量低下時には一人ひとりの状態を考慮した対応や工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをすることで異常などないか確認をし、必要に応じたケアを行っている。		

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄のパターンを把握し、その人に応じた排泄介助方法を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、水分摂取を工夫しながら促している。便秘時には看護師と相談し、お腹の音を聞いたり、緩下剤を適宜使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に好まれる温度を把握したり、快適に入浴して頂けるように努めている。夜間入浴を実施しており、在宅の頃からの生活パターンを継続できるように努めている。	個浴で、本人のペースで毎日でも夜間でも入浴できる。入浴を嫌がる場合は、時間を空けて誘ったり、トイレの続きで誘ったり、人を変えて誘ったりの工夫をしている。入る回数少ない人には足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重した対応を行っている。昼夜逆転とならないよう、メリハリのある生活を送って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬を把握し、状態変化あれば看護師、主治医と連携し、指示をうけている。薬の管理は、施設が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じたイベントや、外出支援を行っている。日常的に、個々におやつ作りや洗いものなど出来る事を手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週日曜日にドライブを行っている。それ以外の日にも近くを散歩に歩いたり、外の空気を吸ったりなど外出の機会を設けている。買い物同行も行っている。	個々の買い物の希望にもできるだけ個別に対応し同行している。「こもれび」では、毎週日曜日にドライブに出かけ、行けない人には日光浴を行っている。「ひまわり」では、カラオケの希望が多く、出かける事は少ないが、回転寿司の夕食時には参加者が多い。	

【事業所名】地域密着型複合介護施設 あい楠見【ユニット名：グループホーム こもれび】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な入居者様においては、買い物の機会に好きなものを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に手紙を書いたり、電話をかけたりできる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に合わせたディスプレイや写真を貼り出し、飾り作りなどを入居者様と行い、空間作りを行っている。	共有スペースは適度な光が差し込み温かみのあるゆったりとした空間になっている。入居者と一緒に作ったりリビングの壁飾りは季節感があり、手作りのぬくもりがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個々の生活習慣や性格を考慮し、快適に楽しく過ごせるよう努めている。気に入合う入居者同士で座って頂くなど工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から使われていた物を取り入れて、ご本人様が安心して過ごせるよう工夫している。配置について、ご家族、ご本人様と相談し、安全面にも考慮した配置を心掛けている。	位牌を置いている居室や手作りのパッチワークで飾られた居室など、その人らしい居室になっている。多くの道具が持ちこまれている場合は、移動時の危険防止の為に家族に整理して持ち帰ってもらうこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの出来る事を把握し、家事やレクリエーションに参加していただいている。		